

第一回神奈川転倒災害防止大会

神奈川労働局では、令和4年2月1日に横浜市西区公会堂で「第一回神奈川転倒災害防止大会」を開催しました。



この大会は、全産業で増加傾向する転倒災害を削減させる目的で開催したもので、コロナ感染拡大の影響を踏まえ会場定員約570人のところ、入場者を60人程度に限定しました。

神奈川労働局から

冒頭、神奈川労働局（労働基準部長 井上健）から、従来、多発した「挟まれ・巻き込まれ」、「墜落・転落」災害に変わり、転倒災害が増えており、近年は全体の約4分の1を占めている。転倒災害は設備的な問題が原因となるほか、労働者の行動に起因するものも少なくないと問題提起しました。



神奈川労働局
労働基準部長
井上健

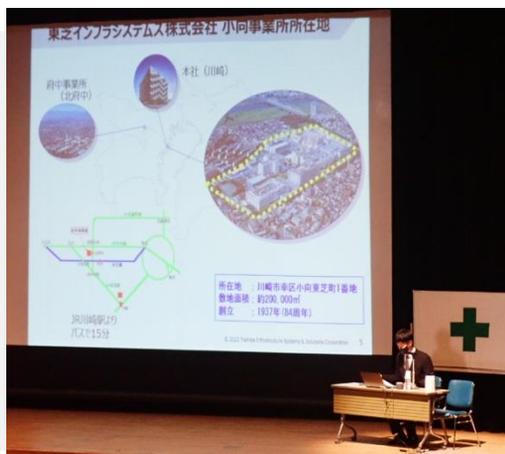


当局担当官

続いて当局担当官から、転倒災害の発生状況を説明し、年齢が高くなるにつれ転倒災害が増えていること、50歳以上の女性労働者で顕著であることのほか、腰痛も増えていることなどを説明して危機意識を共有を図りました。

東芝インフラシステムズ(株) 小向事業所 ～事例紹介～

その後、東芝インフラシステムズ(株)小向事業所から転倒災害防止のための取組事例を紹介しました。この事例として、災害を防止するための危険を感じ取る感度（安全感度）を高くする活動のほか、基礎体力の向上や見える化による取組事例を紹介しました。



中央労働災害防止協会 ～体力チェックの実施方法体験～

特別講演では中央労働災害防止協会（専門役 飯田源 氏）から、加齢による身体機能の低下で生じる転倒リスクのほか、客観的に自身の体力を把握することも重要であるとの説明があった後、高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン、いわゆる「エイジフレンドリーガイドライン」の体力チェックに関し、同協会が作成した「転びの予防体力チェックシート」を活用し、実際に参加者が基本動作を体験しながらその実施方法を学びました。



「エイジフレンドリーガイドラインの体力チェック」に関して、実際に参加者が基本動作を体験しました



神奈川産業保健総合支援センター 「ゼロ災無料出張サービス」紹介

神奈川産業保健総合支援センターから、企業の産業保健活動を支援するための「ゼロ災無料出張サービス」を紹介しました。このサービスは、健康運動指導士や理学療法士などの産業保健の専門家が各企業を訪問し、中高年齢労働者の身体機能の維持・改善のため、その企業にあった改善計画を提案するものでした。

神奈川労働局では、転倒災害が増え続けていることを踏まえ、令和4年度に第二回神奈川転倒災害防止大会を開催し、転倒災害防止に向けた各種情報を紹介したいと考えております。事業者の皆様におかれましては、引き続き労働災害防止についてご協力をお願いいたします。

本件問い合わせ先

神奈川労働局労働基準部安全課
電話：045-211-7352

神奈川労働局労働基準部
安全課